

1. 背景

(1) 人工呼吸器の現状

人工呼吸器のヒヤリ・ハット事例は、継続して発生し、PMDA等が公表している医療安全情報でも注意喚起が繰り返し実施されている。また、高齢化や小児在宅医療患者の増加等の背景から在宅医療の需要が増加している。加えて、在宅での人工呼吸器使用者も増加傾向にある。

(2) 在宅における状況

訪問看護ステーションや在宅向け人工呼吸器販売等営業所によると、在宅特有の環境要因による事例も含めたヒヤリ・ハット事例が発生しているとのこと。

一方で、公表されている事例は医療機関からの報告が主で在宅の状況は明確になっていない。

在宅における状況を明らかにし、課題に応じて必要な対策を講じる必要あり

2. 令和6年度の取り組み

(1) 在宅での人工呼吸器に関するヒヤリ・ハット事例を収集するためのアンケートの実施

訪問看護ステーション及び在宅向け人工呼吸器販売等営業所を対象にアンケートを実施

(期間: 令和6年10月18日～11月30日)

(2) アンケートの内容

回答者の所属、職種等の基本情報、発生環境、発生部位、概要、背景・要因 等

(3) アンケート調査結果(資料2-3)

総回答数: 235件 (うち「ヒヤリ・ハット事例あり」と回答した事業所数: 27件、事例報告件数: 39件)

① 発生頻度の高い事例(表1参照)

1. 気管チューブの抜けかけ・誤挿管・固定不良: 6件(15.4%)
2. 電源供給不良(コンセント未接続、気づかないうちにバッテリー駆動等): 5件(12.8%)

*「その他」には、「気温差による回路の結露」による事例があり、在宅特有の可能性

② 人工呼吸器の発生部位(表2参照)

1. 回路: 9件(23.1%)
2. 加温加湿器: 6件(15.4%)
3. 電源: 5件(12.8%)

③ 背景・要因(表3参照)

1. 看護師に関連するもの: 10件(25.6%) (うち、約6割が「設定・設置の確認不足」)
2. 患者家族に関連するもの: 9件(23.1%) (うち、約4割が「機器の管理不足」)
3. 介護者に関連するもの: 7件(17.9%) (うち、約7割が「知識不足・不慣れ・無理な操作」)

在宅でも医療機関と同様にヒヤリ・ハット事例が発生していることが明らかとなった。

また、在宅に特有な環境要因に起因とすると考えられる事例や、患者家族や看護師のほか、介護者(ヘルパー等)も事例発生の背景・要因への関わりが確認できた。

表1 アンケートで収集した在宅人工呼吸器のヒヤリ・ハット事例の内訳

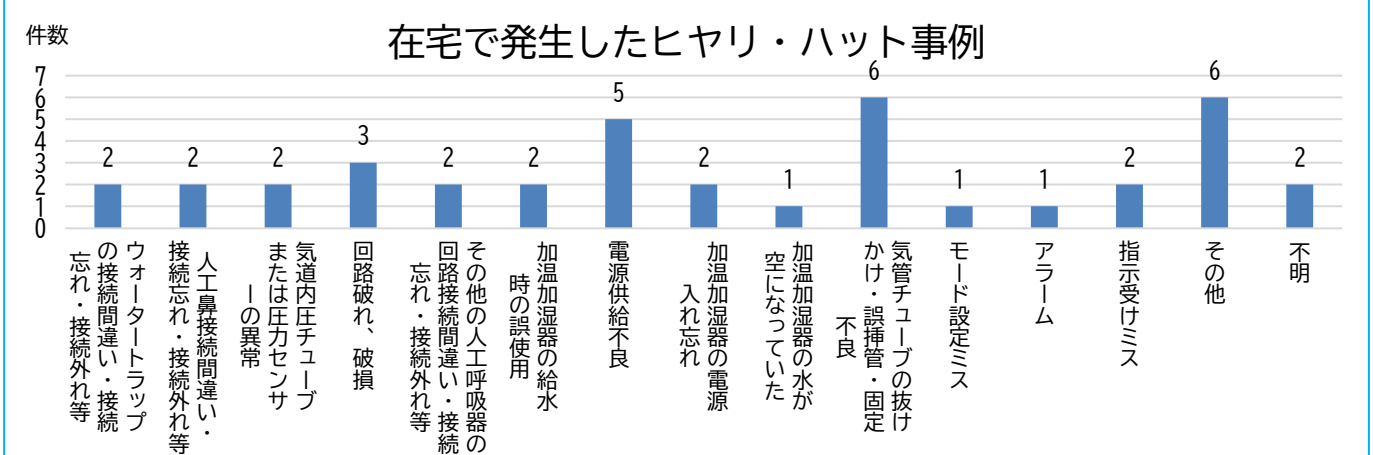


表2 ヒヤリ・ハット事例の発生した人工呼吸器の部位

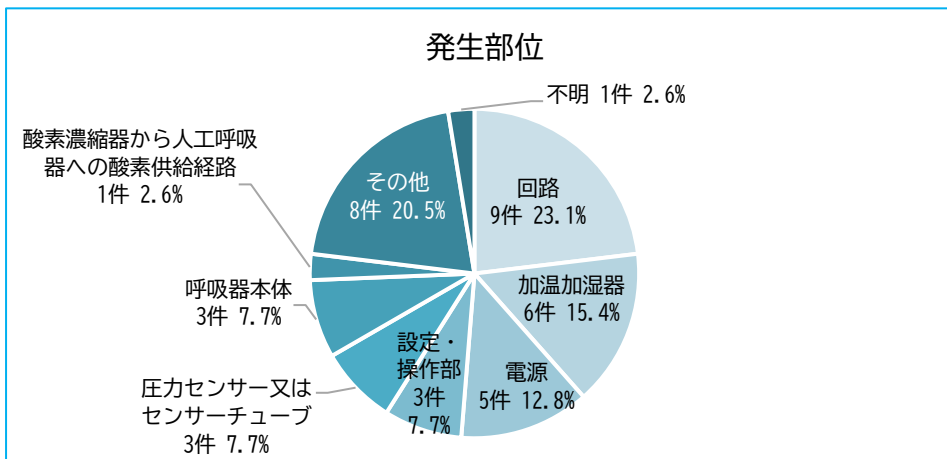
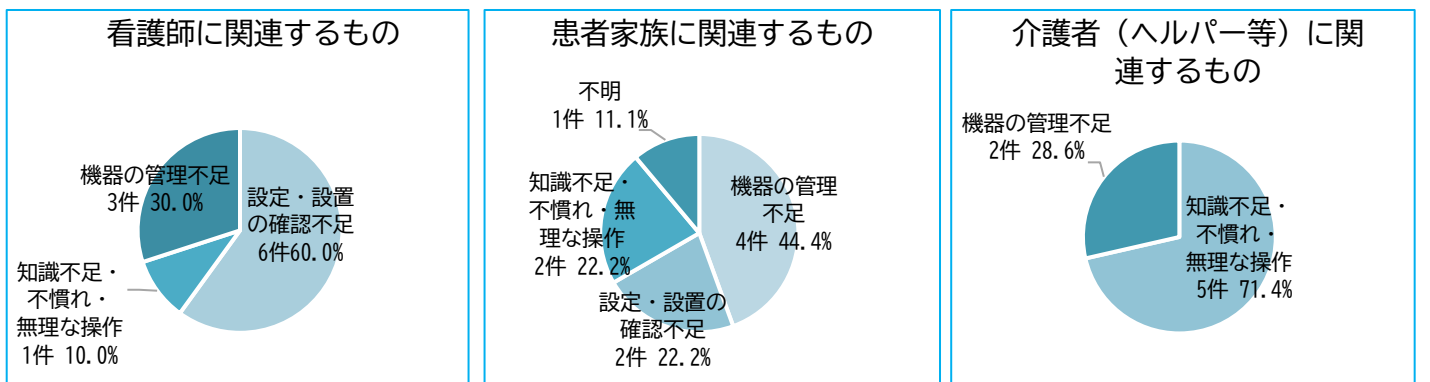


表3 ヒヤリ・ハット事例の背景・要因



3. 今後の予定

(1) アンケート結果からの在宅で人工呼吸器の適正使用に関する課題の把握

ワーキンググループの協力を得て、アンケート結果の詳細を検討して在宅に特有な傾向等の人工呼吸器使用における課題を把握する。

(2) 啓発資材の作成

患者家族等の人工呼吸器に関与し得る方々に必要なヒヤリ・ハット事例を周知し、トラブルの発生を未然に防止するため、ワーキンググループ等の協力を得て、在宅人工呼吸器に携わる患者や患者家族(介護者を含む)、訪問看護師の参考になる資料を作成する。